

平成25年度弘前市市民参加型まちづくり1%システム 審査結果一覧 (3次募集)

番号	新規 継続	団体名	事業名	事業内容	申請金額(円)	採点結果 (不採択…合計60点未満、 または各審査項目3点未満)		採択 可否	採択金額 (円)	採択項目・委員からの主な意見
						合計得点 (平均)	3点未満の 審査項目			
1	新規	特定非営利活動法人 津軽 広域救急支援機構	こどもの救急・アレルギー・アナ フィラキシーショックへの対応と 「エビパン使用に対する講習会」 並びに救急蘇生の啓蒙活動	教育現場や家庭における子ども達のアレルギー反応への対処に関して不安の声があがっていることから、教育関係者や子どもを持つ市民を対象に、アレルギーに関する基礎知識や対処法を学ぶ講習会を開催する。より多くの市民がアレルギーの知識を身につけ、突然の事態にも対処できるようにすることで、安心安全のまちづくりを推進していく。	500,000	89.2	－	○	500,000	講師等謝礼（医師、救急専門講師等）、交通費（講師用）、消耗品費（イベントラ イアルキット、実習資材、メモ用ボード、筆記用具、ネームプレート等）、印刷製本 費（講習会募集チラシ、講習会資料）、通信運搬費（案内・参加テキスト送付）、使 用料（会場、音響、看板、スクリーン等）
2	新規	豊田小学校父母と教師の会	豊田小学校通学路排雪事業	近年豪雪が続き、行政の委託業者による除排雪が追いつかないという状況の中、平成25年3月には雪ですり鉢状になった通学路で児童が怪我をする交通事故が発生した。事故の再発を防ぐため、業者による除排雪が実施されるまでの期間、PTAを主体にして地域内にある除雪機を利用し、危険箇所の排雪をピンポイントで行い、通学路の安全を確保する。	275,000	87.0	－	○	275,000	消耗品費（誘導灯、安全ベスト、コンパネ、補強木材、ボルト、スコップ、オーガ ンシャールボルト、フロアシャーボルト、ガソリン携行缶、笛、カラーコーン、コ ピー用紙、インクカートリッジ）、食糧費（作業時飲み物）、燃料費（除雪機用）、 印刷製本費（看板作製）、通信運搬費（はがき）、ボランティア保険、使用料（軽自 動車、除雪機）
3	継続	一般社団法人 権利擁護あ おい森ねっと	権利擁護支援ネットワーク事業	老年世帯が増加する中、高齢者の問題は介護サービスのみならず、経済的問題や契約その他法律問題など多岐に渡り、様々な機関の分野を越えた連携が必要であることから、昨年に引き続き、市民の身近な悩みについて法律と福祉の専門家がペアで相談を受ける「福祉と暮らしの相談会」を開催する。また、権利擁護に関する他市の事例を学ぶシンポジウム等を開催し、弘前市における権利擁護システムの在り方を検討する。	500,000	65.5	－	○	500,000	講師等謝礼（相談会相談員、講演会講師、シンポジスト）、交通費（講師用）、消耗 品費（用紙、ラベルライタリボン、トナーカートリッジ、封筒）、食糧費（講師飲み 物）、印刷製本費（講演会ポスター・チラシ、相談会ポスター・チラシ、資料印 刷）、通信運搬費（講演会・相談会案内）、使用料（会場、マイク、機材）等
4	継続	四季をふむ会	嶽高原の「かまくらコンサート」 運営事業	かまくら内での津軽三味線の演奏と語りやギター演奏、雪の中での舞踏や獅子踊りによって、より厳寒の岩木山麓の魅力を伝えるため、「かまくらコンサート」を開催する。また、コンサートには地域内の小中学生を無料で招待し、地元の魅力を体感してもらおう。	437,000	45.9	－	×	-	（審査委員会での主な意見） ・常盤野地区の活性化を目的とした他の団体と協力・連携し、地域の社会資源を巻き込みなが ら活動を展開していただきたい。 ・常盤野地区の活性化のため、地域の人が自発的に活動することは必要だが、昨年度実施され た本事業の実績を踏まえ、事業の周知方法について、チラシの作成枚数や配布方法が効果的だ であるのか疑問が残る。
5	継続	岩木山観光協会	岩木山南麓豪雪まつり	「雪と遊ぼう」をテーマに、豪雪を活かした冬の岩木山ならではの内容のイベントを実施し、雪を楽しみながら過ごす機会を提供する。岩木山麓の各団体が協働作業により事業を実施することで、地域の団結を深め、地域活性化への意識を向上させていくほか、それらを市民や観光客にPRし、冬場の岩木山の楽しみ方を伝えていく。	495,000	87.7	－	○	495,000	消耗品（ペイント剤、カラーコーン、スノーボード）、印刷製本費（ポスター、チ ラシ、会場案内看板）、レクリエーション保険、使用料（1tトラック、除雪機 材）、その他経費（馬そり運行、角巻き洗濯、スノーモービル等）
6	新規	弘前ラフタークラブ	ラフターヨガ（笑う体操）で健康 になるプロジェクト	こころとからだに良いと言われている「笑い」を取り入れ、性別・年齢問わず誰でも簡単にできるラフター ヨガのワークショップを開催し、市民の健康づくりを推進する。	255,000	40.5	⑩ 市民の貴重 な税金を使うこ とによる効果が 認められる(1.8)	×	-	（審査委員会での主な意見） ・弘前市において、ラフターヨガの認知度がまだ高くないため、市民に広く普及させる前に、 介護施設や公民館活動など、対象者を絞って自らが向う活動や、市内で行われている他のイ ベントに参加するなどの事業の展開をしていただきたい。 ・心と体の健康づくりという視点から、新たな事業としておもしろいと感じるが、心の病など は、様々な要因が考えられるため、直接的効果が見えてこない。
7	新規	弘前市南城西町会	南城西町会加入と活動参加促進の ためのパンフレット「みなみな南 城西っ！！(仮)」製作事業	町会の仕組みや町内の人やイベントの紹介記事等を掲載したパンフレットを作成する。町会有志で組織する ワーキンググループが、老若男女誰でも楽しく関心を持つ掲載内容を検討し、パンフレットを配布すること で、日常生活に密接な関わりを持つ町会活動への参加を促し、地域の連帯感の向上を図る。	249,000	86.8	－	○	249,000	消耗品費（製本用ホッチキス、針）、印刷製本費（パンフレット）、使用料（会議 室）
8	新規	あおもりPECS研究会弘前 支部	PECSロゴステッカーを拡散し て、ASDの方の外出を推進する プロジェクト（略称：PECSロ ゴステッカー拡散プロジェクト）	言葉でのコミュニケーションに難しさを感じていることが多いASD（自閉症スペクトラム障がい）の方の 外出や買い物などの余暇活動の場を広げ、安心して楽しく外出できるまちづくりを推進するため、商店街を 対象に、ASDの方などに世界的に広く使用されている絵カード（PECS）を用いたコミュニケーション 方法やASDについて学ぶワークショップを開催するほか、参加店舗での模擬体験を実施する。	208,000	84.1	－	○	208,000	講師（ワークショップ講師、報告会講師）、交通費（講師用）、消耗品費（PECS コミュニケーションカード、加盟証明書用紙、用紙、インクカートリッジ）、印刷製 本費（ロゴステッカー作成）、使用料（会議室）
9	新規	バリアフリー調査隊L i e r（リエ）	バリアフリー情報配信 ～弘前をバリアフリーで満たそう～	誰でも容易に市内のバリアフリー情報が入手可能で、障がいのある方も気軽に外出できるようにするため、 バリアフリー状況の調査を行い、それらの情報を掲載した「土手町おもてなしブック」を作成する。調査地 域である土手町商店街で、バリアフリーに関する講演のDVDを上映し、バリアフリーへの理解を深めてもら うほか、障がいのある方も調査に参加し、直接商店街の方と触れ合うことで建築物だけではなく内面のバ リアフリーを進めていく。	332,000	90.0	－	○	332,000	消耗品（ウェットティッシュ、ひも付きボールペン、コピー用紙、バインダー、冊子 手書き用絵具、ストップウォッチ）、印刷製本費（小冊子、調査用紙）、通信運搬費 （小冊子郵送）、その他経費（新聞広告費、ウォーキングメジャー）
10	新規	弘前岩木山スノーボード愛 好会	家族・グループで！健康に冬を楽 しむスノーボード事業	スノーボードをより多くの市民に体験してもらうため、家族やグループを対象としたスノーボード教室・ス ノーボード大会を開催する。教室では、単なる技術向上ではなく、親が安全に子どもへ教える知識・技術に ついて指導し、スキー場を訪れた際にも親子で安全にスノーボードを楽しめるようにすることで、家族での健 康的な冬の過ごし方を広めていく。	500,000	36.7	－	×	-	（審査委員会での主な意見） ・岩木山を盛り上げることは良いことなので、初心者へのケガの危険性よりも、親子やグループ で健康に冬を楽しむという部分をもっと押し出していきたい。 ・スノーボードをこれからやってみたいという人の中で、スクールにお金を払って安全面から 習いたいというニーズがどれだけあるのかが心配である。 ・スノーボードを始める人に対する教室よりも、慣れた人に対するマナー講座や、啓発活動の 方がより効果的な印象を受ける。

平成25年度弘前市市民参加型まちづくり1%システム 審査結果一覧 (3次募集)

番号	新規 継続	団体名	事業名	事業内容	申請金額(円)	採点結果 (不採択…合計60点未満、 または各審査項目3点未満)		採択 可否	採択金額 (円)	採択項目・委員からの主な意見
						合計得点 (平均)	3点未満の 審査項目			
11	新規	津軽ひろさき雪かき検定実行委員会	「雪かき」を活用した親雪推進事業	「雪かきは辛い、大変」から「雪かきは楽しい」と意識の転換を図るため、雪かきに関するイベントや出前講座を開催する。雪灯籠祭りや岩木山南麓豪雪祭り会場で「津軽ひろさき雪かき検定」を開催し、参加者が雪かきの腕を競うほか、市内の小学校等で雪かき出前講座を開催し、海外製のスコップに触れながら雪を楽しむことで、雪かきの楽しさを体感してもらう。	410,000	86.7	—	○	347,000	消耗品費（のぼり、カラーピブス、ステッカー、カナダ製スコップ、日本製ユニークスコップ、ホッカイロ）、食糧費（作業時飲み物）、印刷製本費（チラシ、認定書）、イベント保険、その他経費（ハンズフリー拡声器、アメリカ製スコップ）
合計				11事業（新規8事業 継続3事業）	4,161,000			採択：8事業 不採択：3事業	2,906,000	

採点方法

・採点は審査項目10項目について3段階評価とし、1人100点満点（10項目×10点）により評価を行う。

・採点の結果、出席委員の平均点が60点未満の場合または各審査項目ごとに算出した平均点が3点未満となる項目がある場合は、補助金を交付できないものと判定する。

審査項目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② ひろく不特定かつ多数のための利益増進のものとなっている
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえている
	④ 市民ニーズに対応する解決策として有効なものとなっている
実現性	⑤ 計画や予算が具体的で、事業の実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる